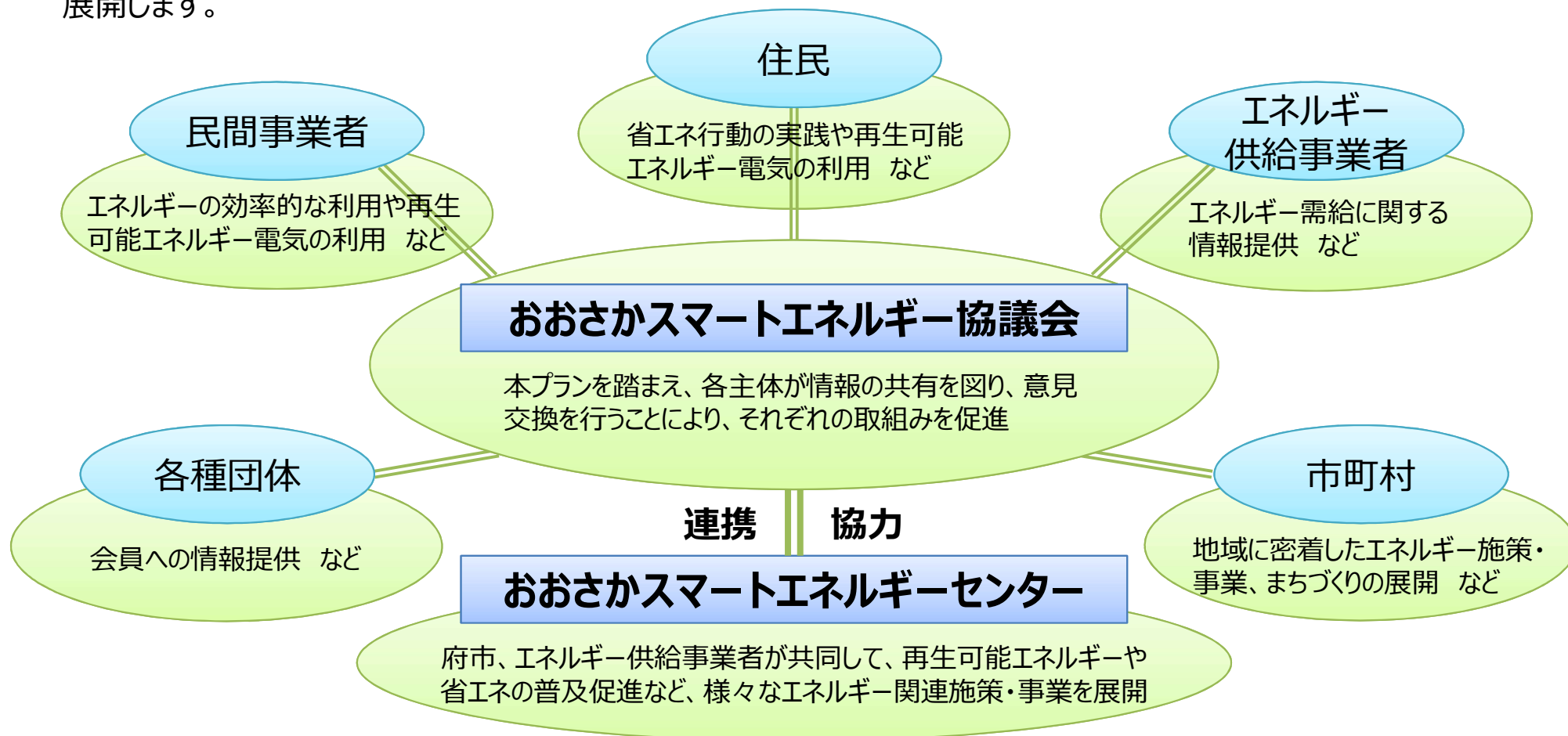


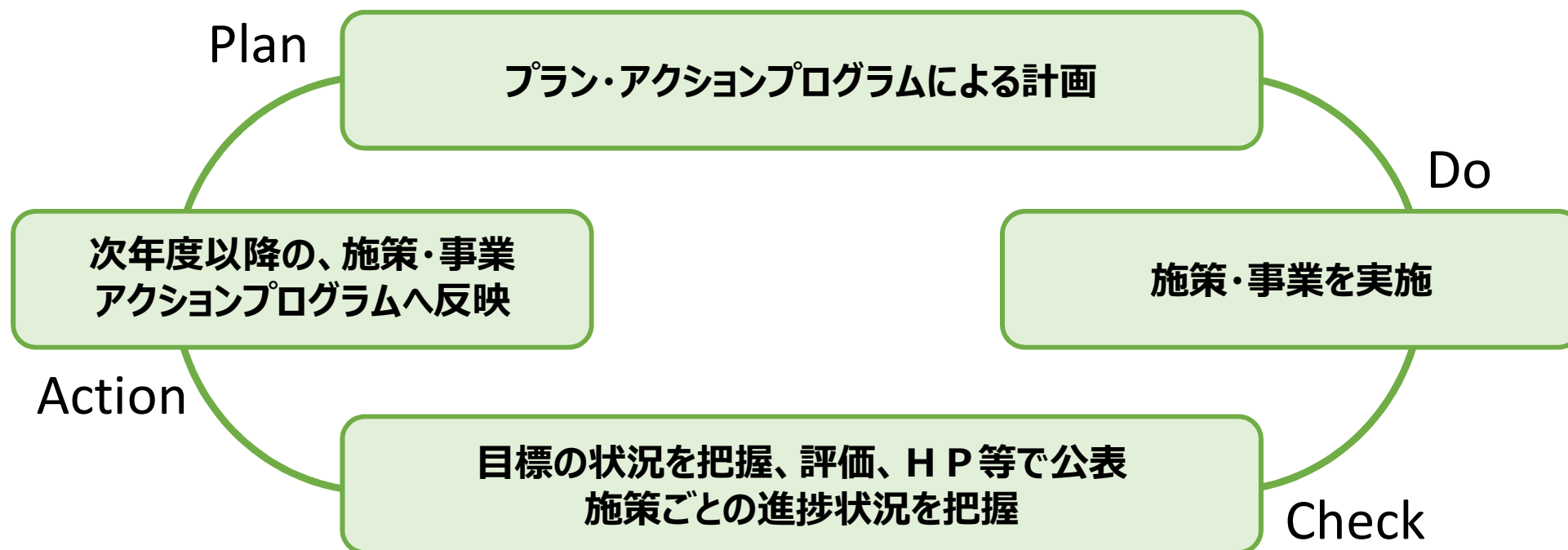
1 施策・事業の効果的な推進体制と各主体の役割

- 府市は、府域におけるエネルギー政策を効果的に推進するため、引き続き、府民、民間事業者、市町村、エネルギー供給事業者等で構成する「おおさかスマートエネルギー協議会」を活用して、関係者とも情報を共有しつつ、意見交換を重ねながら、各主体の役割分担の下、地域におけるエネルギー問題の解決に向けた施策・事業を検討し取組みを促進します。
- 府市がエネルギー対策推進の拠点として共同で設置した「おおさかスマートエネルギーセンター」を中心に、引き続き、府民や事業者からの相談にワンストップで対応し、中小企業者のサポートや民間事業者のマッチングなど、様々な施策・事業を展開します。



2 プランの進行管理と見直し

- 府市が実施するエネルギー関連の個別具体の施策・事業は、毎年度、施策事業集（単年度アクションプログラム）を作成・公表します。
- プランの目標は、毎年度、進捗状況を把握・評価します。また、各施策・事業については、その取組状況をサブ指標を含めて個別に把握し、毎年度、PDCAサイクルにより進行管理します。
- 国のエネルギー基本計画の改定などエネルギー政策を取り巻く動向に合わせて、プランの期間中であっても、必要に応じて見直しを実施します。



ページ	用語	解説
2	脱炭素化	CO ₂ など温室効果ガスの人為的な排出と森林などによる吸収のバランスによる排出量実質ゼロに向けた取組みのこと。
2	大阪・関西万博	国際博覧会条約という国際条約に基づいて、BIE（博覧会国際事務局）に登録・認定され、2025年4月13日から10月13日の184日間、「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに大阪市夢洲で開催される国際博覧会のこと。未来社会の実験場をコンセプトに、人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場になるよう取り組まれている。
3	太陽光発電	シリコン半導体などに光が当たると電気が発生する現象を利用し、太陽の光エネルギーを太陽電池（半導体素子）により直接電気に変換する発電方法のこと。
3	自立・分散型エネルギー	需要家側エネルギー資源に加えて、系統に直接接続される発電設備、蓄電設備を総称するものこと。
4	レジリエンス強化	災害などのリスクに対する抵抗力や乗り越える力、強靱さのこと。
4	分散型エネルギーシステム	需要家エリアに隣接して分散配置される小規模な発電設備全般の総称であり、従来から電力需給システムの主流である電力会社による大規模集中発電設備に対する相対的な概念。太陽光発電や風力発電、燃料電池などがある。
4	燃料電池	水素と酸素を化学反応させて発電する装置。発電時に発生する熱を活用することでエネルギーの利用効率を高められる。
4	コージェネレーション	1つのエネルギー源から2つ以上の有効なエネルギーを得るシステム。エンジンやタービン等によって発電すると同時に、稼動時に発生する排熱を回収して利用することで、高いエネルギー効率を得ることが可能となる。
4	蓄電池	充電と放電を繰り返して使うことができる電池のこと。
4	イノベーション	新機軸、技術革新の意味。新技術の開発・導入、新原料・新資源の開発などによって、改善等がもたらされるとする概念。
5	デジタル技術	IT、IoT、AI、ロボット等のツールのこと。
5	水素（水素エネルギー）	利用時にCO ₂ を出さず、熱や電気として利用することが可能なエネルギーのこと。
5	ZEH	ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）とは、外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備機器等の導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量（自然にそのままの形で存在する石油、石炭、天然ガス、水力、太陽光などのエネルギー）の収支がゼロとすることをめざした住宅のこと。
5	ZEB	ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）とは、建築計画の工夫による日射遮蔽・自然エネルギー利用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることをめざした建築物のこと。
6	廃棄物発電	ごみを焼却する際の熱により高温高圧の蒸気を作り、その蒸気でタービンを回すことにより発電を行う方法のこと。
6	府内総生産	府内で一定期間内に生産されたモノやサービスの付加価値の合計額のこと。このプランにおいては、府内総生産（実質）を用いている。
7	電力需給調整力	蓄電池の充放電、コージェネレーションによる発電など、電力の需要と供給のバランスを調整するために稼働する機器の電力消費・発電（放電）能力のこと。
7	ピークカット・ピークシフト	ピークカットとは、夏の冷房、冬の暖房などによってできる電力需要のピーク（頂点）を低く抑えること。ピークシフトとは、ピーク時の需要を、夜間など需要が低い時間帯にシフトさせ平準化すること。
7	グリーンリカバリー	新型コロナウイルスの感染拡大がもたらした経済停滞からの回復を、気候変動対策とともに進めること。
8	インテグレート	屋根や外壁等の建築物の建材と一体型になっていること。

ページ	用語	解説
8	太陽熱	太陽の熱エネルギーを太陽集熱器に集め、熱媒体を暖め給湯や冷暖房などに活用するシステムのこと。
8	地中熱	浅い地盤中に存在する低温の熱エネルギーのこと。地中の温度は地下10～15mの深さになると、年間を通して温度の変化が見られなくなる。そのため、夏場は外気温度よりも地中温度が低く、冬場は外気温度よりも地中温度が高いことから、この温度差を利用して効率的な冷暖房等を行うことができる。
9	需給一体型モデル	発電と消費をセットにして需給バランスを担保しながら、発電された再生可能エネルギー電気等を100%有効活用するモデルのこと。
9	LCCM住宅	LCCM（ライフ・サイクル・カーボン・マイナス）住宅とは、建設時、運用時、廃棄時においてできるだけ省CO ₂ に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、住宅建設時のCO ₂ 排出量も含めライフサイクルを通じてのCO ₂ の収支をマイナスにする住宅のこと。
10	ナッジ	「ナッジ」（nudge：そっと後押しする）とは、人々が自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法を示す用語。リチャード・セイラー氏とキャス・サンステーン氏が提唱したもので、「選択を禁じることも、経済的なインセンティブを大きく変えることもなく、人々の行動を予想可能な形で変える選択設計のあらゆる要素」と定義される。
10	体化	製品・食品やサービスについて、それ自身の消費によるエネルギーだけでなく、生産・流通・保管などの活動を通じたライフサイクル全体のエネルギーが加わっているものとしてとらえること。
11	エネルギーの面的利用	コージェネレーション等の自立・分散型エネルギーを導入し、複数の建物を熱導管や電力自営線で繋ぐことにより、建物間で電力や熱の融通を行うシステムのこと。災害時に電力供給が途絶えた場合にも、自家発電を行うことで業務の継続が可能となる。また、複数の建物のエネルギーマネジメントを効率的に行うことで、平常時の省エネルギーや低炭素化にも寄与する。
11	スマートコミュニティ	家庭やビル、交通システムをITネットワークでつなげ、地域でエネルギーを有効活用する次世代の社会システムのこと。
12	予備率	電力需要のピークに対し、供給力にどの程度の余裕があるかを示す指標。供給力から予想最大需要を差し引いた値を、予想最大需要で割って算出する。
12	電気自動車	EV（Electric Vehicle）とも呼ばれる。電気を動力源として、モーターで走行する自動車のこと。
12	アグリゲーションビジネス	バーチャルパワープラント（VPP）やデマンドレスポンス（DR）を用いて、一般送配電事業者、小売電力事業者、需要家、再生可能エネルギー発電事業者といった取引先に対し、調整力、インバランス回避、電力料金削減、出力抑制回避等の各種サービスを提供するビジネスのこと。
13	デマンドレスポンス（DR）	電気料金価格の設定といった市場メカニズムを活用することなどにより、需要家が電力の需要量を変動させて需給バランスを一致させること。
13	バーチャルパワープラント（VPP）	点在する発電設備等をIoTにより一括制御し、電力需給を調整することで、あたかも1つの発電所（仮想発電所）のように機能させる仕組みのこと。
13	BCP	事業継続計画（Business Continuity Plan）のこと。企業などが災害や事故で被害を受けたときに重要業務を継続・復旧させるための計画のこと。
13	V2L	V2L（Vehicle to Load）とは、電気自動車（EV）の蓄電能力、プラグインハイブリッド車（PHV）の発電・蓄電能力、燃料電池車（FCV）の発電能力を活用して、災害時やコンセントのない屋外などで電気機器に電力供給を行う仕組みのこと。
17	エネルギー基本計画	エネルギー政策の基本的な方向性を示すためにエネルギー政策基本法に基づき政府が策定する計画のこと。